

聖路加看護学会ニュースレター

第22回聖路加看護学会学術大会を終えて

第22回学術大会 大会長 亀井智子

(聖路加国際大学大学院看護学研究科・研究センターPCC実践開発研究部)

第22回聖路加看護学会学術大会を平成29年9月16日(土)に聖路加国際大学にて開催することができました。多くの方々のご支援とご協力をいただき、207名の参加者を得て盛会に終了することができました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

本大会のテーマは『超高齢社会を支えるPeople-entered Nursing Careの開発』でした。少子・超高齢・人口減少社会のわが国は、持続可能な保健医療サービスのあり方を考えることが重要な時期にあります。国際連合による持続可能な開発目標(SDGs)は、わが国も重視しており、保健医療職には「全ての人々に健康と福祉を」に向けた取り組みが求められています。



このような中、当部が事務局を担うWHO(世界保健機関)看護開発協力センターの取り組みである、WHOとの協働のもとPeople-Centered Care(PCC)の開発、およびケアの受け手である市民と専門職とのパートナーシップにもとづいた個人の変容や社会の変容をめざした実践的ケアモデルであるPCCの有用性をお話しさせていただきました。PCCを基軸とした大会の企画は良い機会であったと思っています。

基調講演の藤原佳典先生(東京都健康長寿医療センター研究所)は、高齢者の社会参加が導く持続可能な互助コミュニティを作る上でのソーシャルキャピタルの重要性を講演されました。教育講演の藤原瑠美先生(ご近所暮らしオムソーリ研究所)は、社会に心を開いて生きるスウェーデンの市民主体の地域づくりについてご講演いただきました。

またランチョンセミナーでは、奥裕美先生(聖路加国際大学)、金子あや先生(聖路加国際病院)、島田伊津子先生(聖路加国際病院)から、PCC実践者を育てる看護教育について講義いただきました。新企画としてラウンドテーブルディスカッションを設け、10テーマのPCC実践について熱く討論する場をもつことができました。シンポジウムでは、「さまざまな場所に求められるPeople-Centered Nursing Care」と題し、多様なPCC活動や研究の紹介と今後の方策や教育について、ディスカッションが行われました。今回の大会を通して、PCCがもたらす様々な成果に触れ、市民とのパートナーシップこそが保健医療の根幹となる概念であることを深く考える機会となりました。

第22回聖路加看護学会学術大会事務局からの報告

第22回聖路加看護学会学術大会のテーマは、『超高齢社会を支えるPeople-Centered Nursing Careの開発』でした。PCCは、ケアの提供者とサービス利用者である市民とがパートナーシップをとり、互いの理解と信頼のもと、強みを引き出し、意思決定を共有するケアのあり方を示すものです。その実践的ケアモデルであるPCCに焦点をあてることにより、PCCがもたらすものは何なのか、共に考え、また様々な方々にアピールする機会にもなり得ると考えました。しかし、PCCをテーマに掲げるだけでよいのだろうか。市民と専門職とのパートナーシップにもとづいた個人または社会の変容を目指していくためには、私たち企画委員が原動力となり、新しいことへの挑戦をするべきなのではないかと思い立ちました。そこで、開催場所を聖路加国際大学 大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター(通称CCA)とし、そして新企画であるランチョンセミナーラウンドテーブルディスカッションを設け、10のテーマであるPCC実践に関して討論する場を設定しました。

大会後の参加者によるアンケートからは、どの企画についても概ね満足だったとの評価をいただきました。自由記載欄には、「すべてのテーマにPCCがつながっていた」「大変刺激を受けた」「ホスピタリティに満ちた学会であった」とのご意見をいただき、事務局としても正直、ほっとしています。

本大会が盛会にて終了できましたのも、企業の方々による講演集への広告・寄附、企業展示、ランチョンセミナーへの提供等、企業の方々による多大なるサポートをいただいたことによるものです。心より感謝申し上げます。また、基調講演・教育講演・ランチョンセミナー・ラウンドテーブルディスカッション・シンポジウム・座長および発表者の皆さま、実行委員、大学院生、学部生のボランティアの皆さまにもご尽力いただきました。厚く御礼申し上げます。また、本大会を開催するにあたり、1年以上も前から共に企画・運営をしてきた企画委員の皆さまに心より感謝申し上げます。



第22回聖路加看護学会学術大会報告

日 時: 2017年9月16日(土)9:00-17:00

会 場: 聖路加国際大学 大村進・美枝子記念聖路臨床研究センター

大会長: 亀井智子

テーマ: 超高齢社会を支えるPeople-Centered Nursing Careの開発

◆大会長講演の様子

超高齢社会を支えるPeople-Centered Nursing Careとは

演者: 亀井智子(聖路加国際大学大学院看護学研究科)

座長: 野末聖香(慶應義塾大学看護医療学部)



◆特別講演の様子

高齢者の社会参加が導く持続可能な互助コミュニティ

演者: 藤原佳典(東京都健康長寿医療センター研究所)

座長: 亀井智子(聖路加国際大学大学院看護学研究科)



◆教育講演

市民主体の地域づくりの実践と研究

ースウェーデンのオムソーリのケアからヒントを学ぶー

演者: 藤原瑠美(ご近所暮らしオムソーリ研究所)

座長: 佐居由美(聖路加国際大学大学院看護学研究科)

◆シンポジウムの様子

さまざまな場所に求められる

People-Centered Nursing Care

演者: 佐久間保人(天空新聞制作委員会)

高井今日子(聖路加国際病院)

有森 直子(新潟大学大学院)

瀬戸山陽子(東京医科大学)

新福 洋子(聖路加国際大学大学院看護学研究科)

座長: 高橋恵子(聖路加国際大学研究センターPCC実践開発研究部)

麻原きよみ(聖路加国際大学大学院看護学研究科)





第22回聖路加看護学会学術大会報告(つづき)

◆ランチョンセミナーの様子

看護教育の新たな挑戦ーPCC実践者を育てるー

奥 裕美 (聖路加国際大学)

金子あや (聖路加国際病院)

島田伊津子 (聖路加国際病院)

共催:(株)星医療酸器グループ



◆ テーマ別ラウンドテーブルディスカッション

新しくお姉さんお兄さんになる子どものクラス「赤ちゃんがやってくる」

不妊治療中・不妊治療を考えている女性の方へ「ルカ子サロン」

子どもの健康を家族と考える「子どもの健康、知ろう、考えよう」

5歳児がからだについて学ぶお話し会「自分の体を知ろう(NPO法人からだフシギ)」

高齢者とご家族へ、ライフレビューを用いた思い出帳づくりプロジェクト

市民のための健康情報サービススポット「聖路加健康ナビスポット:るかなび」

家で死ねるまちづくりを支援する「はじめの一步の会」

乳がん女性のためのサポートプログラム

地域住民と考える「認知症ケア」

ダウン症候群のよりよい生活環境検討会

片岡弥恵子(聖路加国際大学)

森 明子 (聖路加国際大学)

小林京子 (聖路加国際大学)

白木和夫 (鳥取大学名誉教授)

瀬戸山陽子(東京医科大学)、

山本由子(武蔵野大学)

朝川久美子(聖路加国際大学)

射場典子(ディベックス・ジャパン)

山田雅子 (聖路加国際大学)

大坂和可子(東京慈恵会医科大学)

桑原良子 (聖路加国際大学)

青木美紀子(聖路加国際大学)





第23回聖路加看護学会学術大会のお知らせ

第23回聖路加看護学会学術大会は、2018年9月16日(日)に開催されます。
皆様どうぞご参加ください。

会 期:2018年9月16日(日)

会 場:聖路加国際大学 本館

大会長:野末聖香(慶應義塾大学看護医療学部)

テーマ:看護における『聴く・観る・伝える』技術

ホームページ



プログラム:

・大会長講演 「心通う看護を支えるコミュニケーション―アサーションがもたらすもの―」

・特別講演 「対人援助における共感の力:昔ながらの素朴な治療要因」

杉原保史(京都大学学生総合支援センター教授)

・教育講演 「こころのとらえ方に役立ついくつかのこと」

樋山光教(東京医療センター精神科医長)

・シンポジウム 「“看護の技”としてのコミュニケーション」

佐居由美(聖路加国際大学)

細尾ちあき(NPO法人ふるすあるは)

馬庭恭子(ウィメンズ・キャンサー・サポート,広島市議会)

・ランチタイム・ミニ講座:「聴く・観る・伝える」技術を磨く5つのミニ講座

宇佐美しおり(熊本大学)

福嶋好重(横浜市立市民病院)

佐藤寧子(東京医療センター)

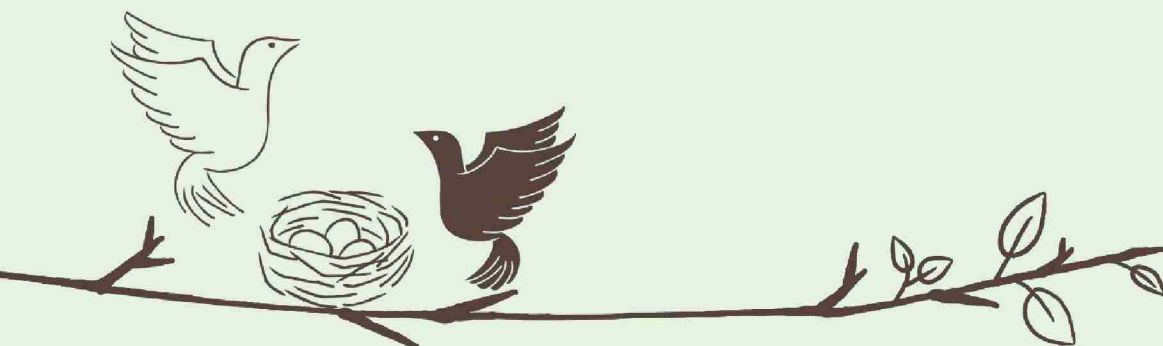
市川智里(国立がんセンター東病院)

柴田実(聖路加国際病院キリスト教センター)

演題募集: 2018年3月14日(水)から2018年5月31日(木)正午まで(予定)

事前参加申し込み:2018年8月30日(木)まで

* 詳細は学術集会HPをご覧ください。<http://slnr23.umin.jp/>





お知らせ

★庶務

早いもので、現在の理事の任期が2018年6月で満了となります。今期の庶務担当理事としては、最後のニュースレターでのご報告になります。次期理事につきましては、定時評議員会後速やかに学会ウェブサイトにて公開いたします。

さて、本学会の会員数は645人になりました。会員の皆様には引き続き、勤務先(所属)、住所、メールアドレス等の変更がありましたら、学会事務局(slnr@slcn.ac.jp)にご連絡くださいますよう、お願いいたします。また、聖路加看護学会会員は看護の実践を重視し、その質の向上と看護学の発展に貢献することを目的とした学会です。ぜひ、この目的に賛同される皆さまのご参加をお待ちしています。

(担当理事 小林京子、奥裕美)

★学術交流委員会

2017年度の学術交流集会は「健康でいきいき働くためのメンタルヘルス バーンアウトからワーク・エンゲイジメントへ」と題して、開催いたしました。本集會では、島津明人先生(北里大学人間科学教育センター・教授)を講師としてお迎えし、職場でのメンタルヘルスケアについてご講義いただきました。当日は約60名の方にご参加いただき、活発な質疑応答を行いました。

2018年度の学術交流集会は、中山和弘先生(聖路加国際大学看護情報学領域・教授)にヘルスリテラシーに関するご講義をいただく予定で準備を進めております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(担当理事: 真田弘美)

★高度実践看護開発検討委員会

この委員会では、現在、社会のニーズに即した看護、高度実践看護のあり方を検討しています。退院支援、地域生活に関する診療報酬、介護報酬はすでにかなり増えてきています。また特定の健康群に対する看護介入のプロトコルや評価は、各学会が取り組まれていることと思いますが、当委員会では、特に今後の社会のニーズや方向性を考えた際の小規模多機能型介護施設400か所の包括払いに焦点をあて、そのサービスの利用、ケア内容について実態を把握、サービス利用側と提供者側からの実態把握をし、看護、高度実践看護が地域の中で何ができるのか、を考えていきたいと思っています。

皆様にもご協力いただくこととなりますが、どうかよろしくお願いいたします。

(担当理事 宇佐美しおり)

★会計

2016年度の会費納入率は68%でした。皆様のご協力に感謝申し上げます。今年度(2017年度)の会費納入がお済みでない方は右記口座にお振込みをお願いします。

(担当理事 中村めぐみ、吉川久美子)



会費納入のお願い



会費納入がお済みでない方は下記口座にお振込みをお願いします。

振込先: 郵便振替口座: 00100-8-670371

加入者名: 聖路加看護学会

来期会計年度: 2018年4月1日～2019年3月31日



名誉会員の訃報

学会に対する先生方の多大な貢献に感謝いたします。

飯田澄美子先生(2017年4月)

(理事1997～1999年、第2回学術大会大会長)

日野原重明先生(2017年7月)

(聖路加国際大学名誉理事長、聖路加国際病院名誉院長)

木下 安子先生(2017年9月)



聖路加看護学会ニュース No.41

●発行: 2018年2月26日 ●編集: 馬庭恭子 長松康子 佐藤直子

●連絡先: 聖路加看護学会事務局 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内

電話 03-3543-6391(代表) FAX 03-5565-1626(代表) HPアドレス slnr.umin.jp

<http://slnr.umin.jp> <http://slnr.umin.jp/>

